

はじめに

1 策定の趣旨

下水道には、従来から、汚水処理による生活環境の改善や公共用水域の水質保全、また、雨水排水による浸水からの生命や財産の保護、都市機能の確保といった基本的な役割があります。

本市では、平成20年代前半まで汚水処理施設の整備に重点を置いた施策を推進してきた結果、汚水処理人口普及率が高い水準に達しました。

こうした中、地球温暖化等の環境問題や少子化・高齢化の進行をはじめとした下水道を取り巻く社会環境の変化、並びに施設の老朽化など、本市の下水道が抱える様々な課題が次第に顕在化してきました。

そこで、下水道に求められる基本的な役割を確実に果たすため、その方向性を指し示す「ひろしま下水道ビジョン」を平成24年度に策定し、これに基づき、計画的に施策を推進してきているところですが、近年の自然災害の頻発化・激甚化や大規模地震の発生リスクの高まり、地球温暖化の進行、施設の老朽化の加速度的な進行、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う生活様式の変化に加え、今後の人口減少に伴う経営環境の悪化や執行体制の脆弱化など、下水道を取り巻く社会環境がこれまで以上に急速に変化してきています。

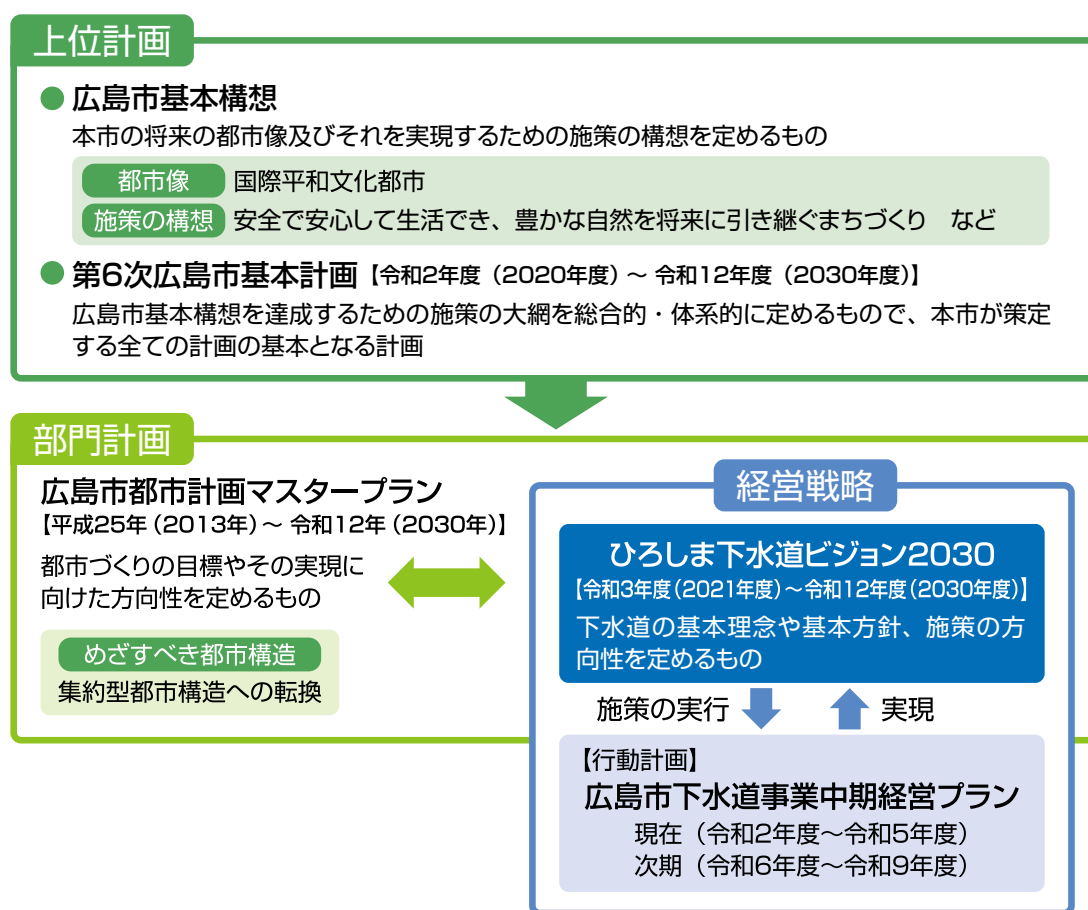
このため、本市では、このような社会環境の急速な変化を変革期と捉え、本市の下水道の新たな課題に対応し、持続的な下水道を実現することを目的に、「ひろしま下水道ビジョンニイマルサンマル2030」（以下「ビジョン2030」という。）を策定し、基本理念、基本方針及び施策の方向性を取りまとめました。

2 位置付け

ビジョン2030は、上位計画である「広島市基本構想」や「第6次広島市基本計画」の部門計画であり、都市計画に関する基本的な方針を定めた「広島市都市計画マスタープラン」にも則して策定しています。

また、ビジョン2030に掲げる基本理念を実現するための行動計画として、各施策の具体的な事業実施方針を決定し、その目標値を示した4か年の「広島市下水道事業中期経営プラン（令和2年度～令和5年度）」を策定しており、当該プランの内容を包含し、ビジョン2030を策定しています。

本市では、「ひろしま下水道ビジョン2030」と「広島市下水道事業中期経営プラン」を合わせて「経営戦略」としています。



ビジョン 2030 の位置付け

3 期間

令和3年度（2021年度）から令和12年度（2030年度）までの10年間を期間とします。

ただし、当該期間中であっても、社会環境の急速な変化や広島市下水道事業中期経営プランの達成状況等を踏まえ、必要に応じて見直しを行います。